

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は2016年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2. 練習場及び練習について

練習は、補助競技場および本競技場の許可された場所を使用すること。その際マーシャルの指示に従うこと。

補助競技場での投擲練習については、砲丸投のみ指定されたピットで行うことを認める。その他の投擲種目は危険防止のため禁止とする。

3. 招集について

(1) 招集所は競技場第1ゲート付近に設ける。

(2) 各種目の招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。

(3) 招集開始時間が来たら招集所にて出場のチェックを行い待機し、競技者係の最終点呼を受ける。同時に背・胸のナンバーカード・スパイクシューズ・競技場へ持ち込む物品などの点検を受ける。

(4) 他の種目に出場しているなど特別な事情のある場合に限り、代理人による招集を認める。この場合、必ず競技者係主任に申し出る。

(5) 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場できない。

4. ナンバーカードについて

(1) 全ての競技者はユニフォームの胸・背に確実に付ける。跳躍競技の競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。

(2) トラック競技に出場する競技者には、写真判定用の腰ナンバーカードを短パンの右腰やや後ろに付ける。

5. 競技の抽選及び番組編成について（レーン順、試技順）

(1) トラック競技予選のレーン順・フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。

(2) タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、最終枠に同記録がある場合は、レーンに余裕がある場合は、次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕のない場合は、1/1000秒まで読み取り、着差を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は、本人または代理人によって抽選とする。

6. 競技について

(1) 競技運営上、競技日程及びピット・短距離走の走路をバックストレートフィニッシュに変更することがある。その際、招集開始時刻の1時間前には放送を通じて連絡を行う。

(2) 短距離走のフィニッシュ後は、競技者の安全のために自分のレーン（曲走路）に沿って走り終わること。

(3) スタートの合図は英語で行い、各レースでの不正スタートをした競技者は1回で失格とする。

(4) リレーオーダー用紙は、予選・決勝とも第1組招集終了時間の1時間前までに競技者係に提出する。

(5) トラック競技では予選上位16位までの記録で決勝へ進出する種目もある。その際、9位から16位をB決勝として実施する。各種目B決勝を先に行いA決勝を後に行う。表彰はA・B決勝出場者の総合結果とする。

(6) 5000mの1組目は、男女同時スタートとする。

(7) 5000mWは、男女同時スタートとし、競技運営上、男子30分、女子35分で競技を打ち切る。

(8) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。

(9) フィールド内での投てきおよび跳躍の練習は、必ず審判員の指示に従う。競技中フィールド内での練習は絶対に行わないこと。

(10) 2種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。

7. フィールド競技

(1) 男子走幅跳、男子やり投については、予選を行う。予選通過記録は、下記の通りとする。

男子走幅跳 6 m60 男子やり投 50m00

(2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種 目	練習	1	2	3	4	5	
走高跳男子	1 m65	1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	—	1 m85以降 3 cm刻み
走高跳女子	1 m35	1 m40	1 m45	1 m50	1 m55	—	1 m55以降 3 cm刻み
棒高跳男子	3 m00	3 m10	3 m20	3 m30	3 m40	3 m50	10cm刻み
棒高跳女子	2 m00	2 m10	2 m20	2 m30	2 m40	2 m50	10cm刻み

(3) 第1位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2 cm、棒高跳では5 cmとする。天候その他の条件によって、変更する場合は当該審判長が決定する。

8. 競技場内への入退場について

- (1) 競技場への入退場は全て、競技役員の誘導により行う。競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技における競技者は、第2ゲートを通り退場し、メインスタンド前は通らない。
- (3) フィールド競技における競技者は、当該競技役員・マーシャルの指示に従い退場する。

9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は全て、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものを使用できる。(やりも個人所有のものを認める。ただし、TICにて競技開始1時間前迄に検定を受けること。)
- (2) フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。(マーカーの数は既定の数を超えないこと。)

10. 競技用靴について

競技場は全天候型舗装であり、スパイクピンの数は11本以内で、長さは9mm以内とする。走高跳とやり役では12mm以内とする。

11. 表彰について

- (1) 各種目の選手権獲得者には、賞状と選手権賞を授与する。
- (2) 各種目3位までの入賞者には表彰を行い、4位から8位までの入賞者には賞状を授与する。(エントランスホールから各自持ち帰る)
- (3) 表彰式は、当該競技終了後、直ちに行う。

12. 応急処置について

医務室は、エントランスホール横に設けてあり、応急処置までの対応を行う。

13. その他

- (1) 競技場内には規定外の商社名・商品名を付けたスパイク袋またはバックを持ち入れてはいけない。
- (2) 競技の進行上、競技開始時刻が変更になる場合があるので、放送に注意すること。
- (3) トラブル防止のため、競技場スタンドに撮影禁止区間を設ける。(撮影禁止区間および撮影を制限する時間帯はプログラムを参照すること)
- (4) テント設置の場合は本競技場敷地内または、補助競技場内とし、公園内には設置しないこと。設置の際は各自・各チームで責任を持って、突風でテントが飛ばされたり、倒れたりしないように、確実にロープ等で固定すること。また、映像装置のカメラ付近への設置はしない。(会場図参考)
※競技1日目終了後、希望するチームにはテントを第3ゲート収納庫にて保管することができる。但し、自己責任にて保管すること。
- (5) ゴミの始末については、各自・各チームで責任を持って行き、競技場にはいっさい捨てないこと。

開 始 式

(9月24日 8:10)

1. 開 式 通 告
2. 大 会 長 挨拶
3. 競 技 開 始 宣 言
4. 閉 式 通 告

優秀選手表彰

(9月25日)

競 技 終 了 後 (男・女)